

2013年9月 定例観察会 報告書

六甲山自然案内人の会 6班 望月

「概要」

- ・実地日 平成25年9月8日(日) 9:15~15:00
- ・天候 雨のち曇り
- ・コース 午前 六甲ケーブル山上駅~ゴルフ場~記念碑台
午後 記念碑台~ノースロード~六甲山ホテル駐車場~記念碑台
(小川谷コースを予定していたが天候不順のため、安全性を考え変更した)
- ・参加人数 ビジター 4名、 会員 18名
- ・配布資料 {小川谷コースマップ} {イヌブナ、見分けのチェックポイント}
{9月8日定例観察会で観ることができる主な植物リスト}
- ・案内人 ビジター対応(松本、安岡) 会員対応(福本、武川)

「観察記」

9時20分濃霧と雨の中、ケーブル山上駅出発

- ・石垣のセンボンヤリの春の花(写真を見せる)と秋の花(閉鎖花)の説明。
- ・ミズキ、クマノミズキの見分け方。対生、互生の説明。ミズキの葉で維管束を説明。
- ・つる性植物(クズ、アケビ、ヤマノイモなど)が土の乾燥を防いでくれる話。
- ・ツタウルシが若葉の時とツタの3出複葉の見分け方。
- ・80数年前に道路が出来、その周辺の裸地にケヤマハンノキ、オオバヤシャブシ、ニセアカシヤなどを植栽した理由の説明。
- ・アケビ、3種類の見分け方。
- ・クロマツ、アカマツの見分け方。
- ・イワガラミ、ツルアジサイの見分け方。
- ・カラスウリ、キカラスウリの見分け方。
- ・ヌルデの虫こぶでお歯黒などに利用した話。複葉と葉柄内芽の説明。
- ・「ウツギ」と名の付く植物が複数の科にあるが茎の髓の空洞に神がやどる(神聖なもの)と考えられ、生活に色々利用されてきた話。
- ・コウヤマキ、日本書紀のスサノオ命の話。古墳時代から棺桶の材料にした話。
- ・ナワシログミ、アキグミの見分け方と名前の由来。
- ・クマノミズキのように鳥に種を運んでもらう植物は二色効果を利用している話。
- ・アカネの真の葉2枚の見分け方。
- ・ツククサの花の色素の利用の話。おしべ6本の働き方。
- ・ミヤコザサ、ネザサの見分け方。
- ・スギとヒノキの成長の度合いの違い。

12時10分記念碑台で昼食、雨は止んでいる。

12時50分、雨が完全に止んだようなので午後も観察会を続けることにしました。
午後の出発前に六甲山の花崗岩が風化したできた酸性土壌、この酸性土壌が好きな
ツツジ科の植物が多い話。きれいな花の咲いている写真を見ながら早春のアセビから
一番最後に花咲くホツツジまでを解説。

13時 足元に注意しながら記念碑台を出発

- ・マルバハギ、ヤマハギの見分け方。
- ・ボタンヅル、センニンソウの見分け方。
- ・ネジキの幹はねじれているのが見えるが、外から見えないが中がねじれている木も
あり、木のバランスなどを保っている話。
- ・ベニドウダンなど花が垂れ下がって咲いても、実が熟すと上向きになるという話。
- ・ツリバナ、マユミの見分け方。
- ・スギ、ヒノキの葉の落とし方。
- ・モリアオガエルが産卵する場所。

午後の観察では草本も木本も果実が目立った。

15時記念碑台にて解散。

・その他観察した草本

カエデドコロ、ミズヒキ、エノキグサ、ホドイモ、ミズタマソウ、ダイコンソウ
ヨウシュヤマゴボウ、ノササゲ、ヤブハギ、フタバアオイ、ツリガネニンジン
コマツナギ、ノギラン、メドハギ、ヨモギ、ヤブタバコ、ヤブマオ、ヒヨドリジョウゴ
タムラソウ、ワレモコウ、マツムシソウ、ヨシノアザミ、ヘクソカズラ、ヒメスイバ
ヒメカンアオイ、ホタルブクロ、ギンミズヒキ、ツルマンネングサ、ゲンノショウコ
カナムグラ、ヒヨドリバナ、オニドコロ、ハエドクソウ、ミヤマカタバミ、キツリフネ
ツリフネソウ、イタドリ、ツルリンドウ、チゴユリ、キクバヤマボクチ、ハナタデ
ヤマジノホトトジス、オオバコ、テイショウソウ、シュウブンソウ、イノコヅチ、ウド
ママコノシリヌグイ。

・その他観察した木本

オオシマザクラ、ムベ、コナラ、キブシ、イロハカエデ、ネムノキ、リョウブ
サルナシ、コアジサイ、コバンノキ、アオキ、コシアブラ、シロダモ、ヤブニッケイ
クマヤナギ、カナクギノキ、ニシキギ、ヤマナシ、ソヨゴ、エゴノキ、ガマズミ
ノリウツギ、ウラジロノキ、ツクバネウツギ、コバノガマズミ、オトコヨウゾメ
スノキ、クロモジ、ナツハゼ、アクシバ、イヌツゲ、クリ、ウバメガシ、ドイツトウヒ
ツルウメモドキ、スイカズラ、アオツツラフジ。

以上



霧の中の観察



ツツジの説明



雨のあとの
ヤマジノホトギス



葉が濡れたホツツジ

シシガシラと
ツルリンドウ

